

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

【運営理念・経営方針】「天に星・地に花・人に愛」

人にやさしい豊かな心を持って、地域福祉の信頼ある担い手として、地域社会に貢献して行きます。
また、みんなの笑顔があふれる福祉サービスの向上に努め、日々新たな気持ちで、活力ある経営を目指します。

- ① 保育・療育の運営実績から得たノウハウを最大限に生かし、安心・安全な保育・療育そして相談支援を実現します。
- ② 地域密着型・地域との連携を重視した運営を行います。自主事業をはじめ、区内で最も地域との連携のとれた運営を目指します。
- ③ 世代間交流・異年齢間交流の促進を重視します。中高生ボランティア・高齢者交流などを運営に取り入れていきます。

【児童園運営理念】こどもの“元気”を育てます!

- ① 「自立の力」を育てます 自立し、幸せな人生を送るために、子どもたちを中心に大人が力を合わせ、支え合い・学び合いながら未来を創る
- ② 「個性を尊重」子どもたちの最善の利益を大切にし、一人ひとりの個性を尊重し、愛情と理解をもって支援する
- ③ 「学習支援」「社会的スキルの向上」「趣味や特技の発見」「自己表現の場」
活動や交流の場を提供し、子どもたちが自信を持って社会に出ていけるようにサポートします。

心身の発達に遅れやつまずきのある児童に対して、その子の発達段階に応じて個別的・集団的な指導を行い、基本的な動作の習得や人との関わりのおもしろさの中から共に豊かな日常生活が過ごせるように、全体的な発達を促す支援をします。

【開所】

令和5年4月1日

【定員】

1日…10名

【営業時間】

月～金曜日、長期休暇を含む：10:00～17:30

土曜日、長期休暇を含む：10:00～17:00

【送迎実施の有無】

あり(条件付き)

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

【本人支援】

① 日常生活の充実と自立支援のための活動

子どもが意欲的に関わられるような遊びを通して成功体験の積み、自己肯定感を育めるように支援しています。また、子どもが通う学校での方針や役割分担等を共有できるよう、必要に応じて学校と連携を図りながら支援を行います。

② 多様な遊びや体験活動

遊びの中に発達を促す要素がたくさんあるため、挑戦や失敗を含め、屋内外を問わず、様々な遊びを行います。また、体験したことや興味を持ったことに取り組むことは、新たにやってみたいと感じる機会に繋がることから、多様な体験の機会を提供し、子どもが望む遊びや体験、余暇等を自分で選択しながら取り組めるよう支援していきます。その際、配慮された環境の提供を目指しています。

③ 地域交流の活動

社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように、地域の中に子どもの居場所をつくりながら子どもの社会経験の幅を広げていきます。地域での遊びや体験の機会をつくるとともに、中学生職場体験の受け入れにより、積極的に地域との交流を図っています。こうした取り組みは子どもにとって、地域そのものが安心・安全な居場所となることにも繋がります。

④ 子どもが主体的に参画できる活動

子どもと一緒に活動を企画したり過ごし方のルールを作ったりするなど、子どもが主体的に参加できる機会を設け、意見を言いながら、一緒に活動を組み立てていきます。その際、子どもの意思を受け止め、個性に配慮するとともに、子どもに寄り添いながら進めていくことで、自分自身が主体であることを実感できる機会を設けています。

【家族支援】

<目的>

事業者が児童福祉法に係る法令に基づき、家庭へのより綿密な支援の提供と療育に関する情報共有や日々の相談事の早期解決に繋げること。

<具体例>

施設内での面談等を通して、日々の悩みの共有や個別支援計画に関する援助を行います。また、支援場面を通して子どもの特性や特性を踏めた関わり方を学ぶことができる機会を提供しています。

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

【移行支援】

<目的>

具体的な移行先がある場合は、その移行先を見据えた支援をし、現時点で具体的な移行先がない場合は、子どもが地域で暮らす他の子どもと繋がりながら日常生活を送ることができるように支援を提供すること。また、入学・進学・就職等のライフステージ移行時は、取り巻く環境が大きく変化することを理解した上で支援すること。

<具体例>

- ・区役所でのイベントへの参加(ボッチャ)、区民ひろば等での課外活動

【職員の質の向上に資する取り組み】

- ① 採用時研修を採用後1か月以内に行っています。
- ② 継続研修を年3回以上行っています。
- ③ 毎日療育の振り返りを行っています。
- ④ 週1回全体ミーティングの時間を設けています。

【地域支援・地域連携】

<目的>

通所する子どもに関わる地域の関係者・関係機関と連携した支援

<支援内容>

- ・子どもが通う保育所等や通う予定の学校・放課後児童クラブとの情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助、児童発達支援計画の作成または見直しに関する会議の開催
 - ・子どもを担当する保健師や子どもが通う医療機関等との情報連携や調整
 - ・子どもが利用する障害児相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携
 - ・虐待が疑われる場合には、児童相談所や子ども家庭センターとの情報連携
 - ・個別のケース検討の為に会議の開催
- 等

【主な行事】

*季節ごとのイベント … こどもの日・七夕・水遊び・クリスマス会・豆まき会・ひなまつり・卒園式等

*お誕生日会、戸外遊び、地域へお散歩、交流保育 等

※お子様にあわせたスケジュールやプログラムをご提案させていただいております。

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

1. 支援内容 ～療育の5領域とイルカ児童園療育プログラムとの関連性～

① 健康・生活

健康な心と体を育て、安全な生活を作り出すことを支援しています。また、子どもの心身の状態を確認し、日頃と異なった状態を見つけ出せるよう、意思表示が困難である子どもの特性や発達過程も配慮し、サインや心身の異変に気づけるよう観察を行い、環境の工夫や特性に配慮しながら、わかりやすい空間の提供をしています。

<具体例>日付や体調の確認、身だしなみチェック等

② 運動・感覚

運動サーキットや体操、サッカーなどを取り入れ、様々な感覚を満たせるように工夫をしながら粗大運動を行い、製作や机上でのレクリエーションを通して微細運動を促しています。好きなことや遊びを通して、お子様が楽しみながら活動することで自然と運動能力を身に付けていけるような環境を提供していきます。また、感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整も行っていきます。

<具体例>運動サーキット(鉄棒、なわとび、トランポリン、マット運動等) 机上遊び(トランプ、UNO、ドミノ等)

③ 認知・行動

学習のフォローや友達との関わり方を学ぶ SST(ソーシャルスキルトレーニング)を用いて支援していきます。また、幼児期に積み上げてきた身体機能やボディイメージをさらにコントロールできるようにして日常生活動作につなげていきます。物の形や色、音、大小、数などの概念形成を図ることによって、それを認識し行動の手掛かりとして活用できるよう支援していきます。

<具体例>学習のフォロー、SST等

④ 言語・コミュニケーション

学校での様子や過去の出来事を話す機会を作り、物事や自分の行動を言葉で伝えられるよう支援していきます。コミュニケーションを円滑にするために、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要なため、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションをとれるよう促していきます。また、SSTにて、社会の中で暮らしていく為のスキル獲得を支援していきます。

<具体例>SST、気持ちの読み取り・表出、レクリエーション活動等

⑤ 人間関係・社会性

子どもが環境に安心感・人と自分に信頼感を育む支援を目指しています。感情が崩れたり、不安になった際に職員が相談にのることで、安心感を得たり、感情に折り合いをつけたりできるよう「安心の基地」の役割を果たせるよう支援をしていきます。具体的には、遊び等を通じて人の動きを模倣したり、職員が介入しながら役割分担をしたり、複数人でルールのある遊びを通して、社会性の発達や対人関係の構築を促していきます。感情のコントロールは、気持ちが高ぶった原因の振り返りを行ったり、自身に合うクールダウン方法を見つけ、少しでも過ごしやすくなるよう支援していきます。また、自分の得意なことや苦手なことなど、自己理解を深める機会も設けています。

<具体例>気持ちの振り返り、クールダウン方法の獲得、見通しでの活動、椅子取りゲーム等のルール遊び等

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

放課後等デイサービスの提供に当たって目安の年齢区分	
<p>小学校低学年 (概ね 6～8 歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面の基本的技能や日常生活に必要な概念を学習し、係や当番等の社会的役割を担う中で自らの成長を自覚する。 ・興味が広がり、遊びの種類も増え、好奇心や興味が先立って行動することが多い。 ・大人に見守られることで、努力して課題を達成し、自信を深めていくことができるが、その後の時期と比べると、大人の評価に依存した時期である。 <hr/> <p>イルカ児童園では、学習などのフォローやお友達との関わり方を SST (ソーシャル・スキルズ・トレーニング) などを用いて練習する機会を設けています。</p>
<p>小学校中学年 (概ね 9～10 歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な思考や抽象的な言語を用いた思考が始まる。物事の判断も結果だけでなく過程も大切に始める。また、お金の役割や社会の仕組みについて理解し始める。 ・遊びに必要な身体的技能がより高まる。 ・同年代の集団や仲間を好み、大人に頼らずに活動しようとする。他者の視線や評価に一層敏感になる。 <hr/> <p>イルカ児童園では、お友達の気持ちを考える SST やお金(お札・硬貨)の理解を深め、現金でもお買い物できるように練習する機会を設けています。</p>
<p>小学校高学年 (概ね 11～12 歳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の生活を通じて、様々な知識が広がっていく。 ・得意不得意を知るようになる。 ・日常生活に必要な概念を理解し、計画性のある生活を営めるようになる。 ・個々のこどもの性的な発達段階や性への興味・関心に応じ、心や身体の発育や発達に関して正しく理解することができるよう、性に関して学ぶ機会を多く作る事が重要である。 <hr/> <p>イルカ児童園では、環境が変わることへの精神的ケアや大人から自立する時期でもあるため、社会のルールやマナー・性に関して学ぶ機会を設けています。</p>
<p>思春期 (概ね 13 歳以降)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人へと心身ともに変化していく大切な時期であり、身体的変化や精神的変化に戸惑いを感じる時期である。こうした戸惑いと親からの自立を目指した一連の動きは、反抗的あるいは攻撃的な態度として表れることも多く、家族を含め周囲の大人の対応によっては情緒的・精神的に不安定となる危険性がある。 <hr/> <p>イルカ児童園では、自宅以外での安心できる場所の提供を行います。また、学業のレベルが上がる為、様々な学習のフォローする機会を設けています。</p>

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

2. イルカ児童園の主な療育プログラム

① 応用行動分析(ABA:Applied Behavior Analysis)

応用行動分析は、アメリカの心理学者スキナーが提唱した心理学的アプローチです。個人の行動は周囲の環境と相互に作用し、いい出来事であれば繰り返し行うようになり、嫌な出来事だとしなくなるという考え方から、成功体験を積み重ねることで行動を変えるように働きかけるものです。

《応用行動分析(ABA)の考え方》

行動に着目する行動分析を、子どもの支援に生かす考え方として、ABA があります。ABA では、行動だけでなく、行動の“きっかけ”と“結果”に注目することで、子どもに対する理解を深めていくことを目的としています。

★トークン・エコノミー

目標となる行動を決め、それができたらトークン(ご褒美)を出す。

例えば、毎日5回手を挙げて発表したらシールをあげる、など。

★プロンプトとプロンプトフェイディング

新たな行動を試みるとき、行動の前にそれを促すようなきっかけを与えること。

例えば、直接体に触れてやり方をガイドする(身体的プロンプト)、「ありがとう」と言ってもらいたいときに、「あり、あり…」など言葉でヒントを与えること(言語的プロンプト)、言って欲しい場所に目印を描く、指差して教える(視覚的プロンプト)などがある。

※ここでは1事例のみの提示ですが、プロンプトにも様々な種類があります。

逆に、今まで出していたプロンプトを少なくし、自立を促すことを「プロンプトフェイディング」という。

【 具体例 】

・行動のきっかけをなくす

→お菓子の取りあいが起こらないように、「同じお菓子を複数用意しておく」「けんかにならないように別の部屋で遊ばせる」などの対応が、してほしくない行動のきっかけをなくす、という具体的手続き。

・行動の〈結果〉にくよい行動〉を提示する

→「無理矢理引っ張ってほしいおもちゃをとろうとする」等の行動が見られた時に、おもちゃを渡さないというのが結果への対応例になる。それよりも、「貸して」「終わったらやらせてね」といった、よい行動を身に着けさせることに重きを置いた支援を行っていく。

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

②認知行動療法(CBT:Cognitive Behavioral Therapy)

認知行動療法は、アメリカのAaron T Beckが開発した心理療法で、「認知療法」と「行動療法」を兼ね合わせた心理学的アプローチのことで、うつ病等の治療にも使われています。

人は外界から刺激を受け、それを認知して自分の行動を起こす。このとき、認知の仕方にゆがみ(偏見)があると、それがもつてストレスを感じる事がある。認知行動療法ではこの「認知のゆがみ」を修正するようなトレーニングを行うことで、自信をもって行動できるよう促していく。

ストレスを感じた具体的な出来事を取り上げて、その出来事が起きた時に「頭に浮かぶ考え(認知)」「感じる気持ち(感情)」「体の反応(身体)」「振る舞い(行動)」という4つの側面に注目する。そこから自分のストレス反応のパターンに気づき、さらなる悪循環に陥らないように調整していく事を目指していく。

◀ 認知行動療法(CBT)の考え方 ▶

- a. 自分のストレスに気づいて、心の問題を整理する。
- b. 自分の考え方が感情や行動にどう影響しているのか調べる。
- c. 自分の考えの内容と現実の歪みに注目し、現実に沿った、より柔軟な物の見方に変える練習をする。
- d. 柔軟なものが見方が身についてきたら、問題を解決したり人間関係を改善する行動方法を練習する。

★アサーションスキル

自分と相手両方を尊重しながら、自己表現を行うスキルの事。主語を“自分”に置き換えたり、前向きなお願いをしたりすることで、自分と相手の意見を弱めすぎず事なく、心地よいコミュニケーションを目指す。

→自分が見た事実と感じている気持ちを交えて提案する。提案を否定する場合は、別の提案を試みる。

★リラクゼーション法

自分の身体をほぐして、ケアしていくスキル。緊張や不安を抱えていると、自然と筋肉が緊張して体がこわばってしまう為、身体に意識を向けて、リラックスしていく方法。

★エクスポージャー法(曝露法・曝露反応法)

「曝露」とは、苦手な事で避けている出来事に少しずつ慣れていく事。不安症やトラウマへの心理療法としても活用される事もある。

苦手な事をすると、その刺激により、ストレスや不安を感じる事がある。しかし、苦手な事を避け続けてしまうと、かえってストレスや不安が慢性化して大きくなってしまふ事がある。エクスポージャー法では、苦手な事を避けるのではなく、負担のない範囲からチャレンジして成功体験を増やしていき、苦手を克服していく。

★スキーマの修正

スキーマとは、「考え方(心の法則)」の事。過去の経験やトラウマ、成功体験などから作られた考え方のパターンで、実際に起きた出来事に対する捉え方に影響を与える事がある。

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

【 具体例 】

[玩具の貸し借りにおいて]

Aさんが「おもちゃを貸して」という。しかし、Bさんはおもちゃを使ったばかり。

Bさんはなんと言ったらよいでしょうか？

Bさん「おもちゃを貸してあげたい気持ちもあるんだけど、今使ったばかりなの(事実と気持ちを伝える)。だから、もう少し後で貸してあげるね(別の提案)」と、言えるようになる。

[人前でのスピーチ]

人前でスピーチをするときに、ひどく緊張してしまう場合 Cさん。

まずは一人の前(指導員のみ)で練習し、徐々に人数を増やしていく。少しずつ慣れていけるように調整していく。最後に、みんなの前で発表できるようになる。

③ SST (Social Skills Training)

SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)とは、認知行動療法を応用したアプローチで、社会で生きていく上で必要なスキルを会得するためのトレーニングです。人は人との関わりの中からさまざまな社会的ルールを学びます。しかし発達障害がある場合などはそのルールに気づくことができず、人間関係に困難を覚える場合があります。SSTでは、指示を理解したり、状況を判断したりすることや、人とのコミュニケーションを行う上での苦手意識を少なくするなどのトレーニングを行います。

また、SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)では、かるたやブロックなどのツールを使ったゲーム、寸劇のようなロールプレイ、そしてグループでの遊びやお話を通して、コミュニケーション能力を身に着ける訓練をします。

【 具体例 】

[感情のコントロールが苦手な児童に対して]

a. 感情カードを使用し、イラストや絵に描かれている表情が、どういう気持ちなのかを話してもらう。

例) ・笑顔カード…お菓子をもらってうれしい気持ちになった。

大好きな友だちと一緒に鬼ごっこをして遊んだ時、楽しい気持ちになった。等

・泣いているカード…弟におもちゃを取られて悲しくなった。

友だちと喧嘩しちゃって、涙が出てきちゃった。等

b. 数字の概念が理解できるようになったタイミングで、怒りの感情について、どういう気持ちになるのかを表現してもらう。

例) ・怒りが1の場合、「怒っていない時」「静かにできる時」等。

怒りが5の時は、「目の前になるおもちゃを投げたくなってしまおう」「お母さんに“嫌だ嫌だ”って言いたくなってしまおう」等。

c. 怒りの感情が出てきた時の約束ごとを決める。

例) ・怒りなくなったら、静かにできる部屋に行きたい、とその児童が決めた場合、クールダウン部屋を用意する。

・大好きな犬の写真を見たら、怒りの感情が落ち着くかもしれない、と決めた場合、その児童の好きな犬の写真を用意し、“見たくなった時に教えてね”と約束をする。等

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

[交通ルールを覚えるのが苦手な児童に対して]

・横断歩道を確認せずに渡った時の危険な例について、ビデオやイラストで伝え、「ではどうしたらいいかな?」と考えてもらう。

・ルール遊びの中で、“ストップ”と言われたら、止まるゲームを行ったり、信号ゲームで“赤になったら止まる”等、生活の流れの中で交通ルールについて学ぶ機会を設ける。等

④ 作業療法

作業療法は、人が持つ五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)や身体感覚(バランス、スピードなど)の統合に困難がある場合、これらをうまく統合して活動がスムーズにできるよう整えていきます。

日々の生活の中にある作業(ブロックのつなぎ合わせ、文字を書く、絵を描く、のり等の道具を使う等)を個別あるいは集団の中で用いる事で、心身ともに健康で“自分らしい”生活が送れるように援助するもの。

【 具体例 】

[スプーンがうまく使えない児童に対して]

・ペットボトルの蓋の開け閉め、新聞紙ちぎり、なぐり描き、粘土遊び 等

[靴下がうまく履けない児童に対して]

・ごっこ遊びの中でシュシュ(髪留め)を足首に通す、お玉ボール運びを行う、新聞紙丸め 等

⑤ TEACCH (Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children)

TEACCH(ティーチ)は、自閉症やその傾向があり、コミュニケーションに課題を抱える人のためのプログラムです。アメリカのノースカロライナ州では、自閉症の人とその家族を生涯支えるプログラムとして 1972 年以來行われています。

TEACCH では、対象者を生涯にわたって支援します。支援は自治体など地域に根付いて行われ、対象者が地域で安定した生活ができ、かつ人生を豊かに過ごせるよう、一人ひとりの特性に合わせた個別スケジュールを作ってサポートします。

≪ 構造化の4つの要素 ≫

「物理的構造化」…環境・場所を構造化する為に、エリアごとにパーテーションで仕切る。異なる活動を同じ場所で行わない(勉強するスペース、着替えをするスペース等を固定する。) 等

「時間の構造化」…スケジュールを提示し、活動の流れを視覚的に把握できるようにする。やるべきことのタスクリストや準備すべきもののチェックリストを作成する。 等

「活動の構造化」…集団療育では、ポーズカード→おあつまり→運動サーキット→制作活動→着替え→昼食→午後の活動と、毎日決まった流れで活動を行う。着替え方を統一する。 等

「視覚的構造化」…片付けの際に、どこに何を片付けるかがわかるように玩具箱に写真を貼っておく。水筒入れ、連絡帳入れ等身支度時にどこに何を置くのかを分かるようにイラストを貼っておく。 等

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

⑥運動療法

【 運動で脳を鍛える 】

原始反射は脳幹部に備わっています。原始反射は発育発達の過程で残存してしまう事があり、これが発育発達のトラブルを引き起こします。ADHD や自閉症、発語障害などにも運動によって、原始反射を整える事は効果的です。運動で土台をつくると、学習やスポーツ、アートなどの専門分野にもつながります。

「なぜできない」「どうしてもうまくいかない」という原因にも納得できる理由があります。

【 集団の療育で自立を目指す 】

友だちと競争したり、褒め合う事ができる環境でチャレンジと失敗・成功を繰り返す事で、自立を達成する事ができます。運動を通して、挫けそうになっても這い上がってみせる心の逞しさ(リバウンドメンタリティ)を幼少期に身に付けます。自分自身やお友だちと向き合う環境を作ります。壁を感じ、壁を乗り越える力(マインド)を育みます。

【 「動」と「静」のセットでメリハリを意識 】

「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。

脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。

★運動プログラム

・ポーズカード…両手両足を交互・又は同時に動かしていく中で、感覚刺激を行い、ボディイメージを高めます

・ジャンプ…パーグー、パーケン、ケンケン、縄跳びなど

手のひら、足裏、そして体全体の連動性を高める事ができる。

・ボール運動…足の裏、手のひらをつかう事は鉛筆を握ることや文字を書く事、手を使う細かい動作に必要。足の裏は歩く、走るはもちろん、身体全体のバランスをとるとても重要な部位です。

・リトミック…ストーリーやイメージと運動をセットにして取り組んでいます。

音を聴いたり、音に合わせて身体を動かすだけではなく、ハイハイをする際に「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えることもできます。

・運動サーキット…平均台・ソフト巧技台・鉄棒・縄跳び・バランスストーン・マット運動等

※身体全体のボディイメージや感覚統合を意識し、一人で行う場合・ペアになって行う場合等、その日の子どもたちのコンディションや課題に合わせて内容を工夫しています。体幹を鍛えるだけではなく、“待つ事”“順番”も意識できるようになったり、友だちの様子を見る事で“やってみよう”とやる気に繋がったりしています。

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

・微細運動…積木・パズル・タングラム・運筆・ポットン落とし・ブロック遊び・紐通し等

※数分ごとにあそびを変えて脳を刺激し、脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることができま。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。

・雑巾がけ…床に足と手をつけて、手で雑巾を床に押し当てながら掃除をする為、身体全体の筋肉を使う事になります。下半身や腕の強化だけではなく、身体全体のバランス感覚を養ったり、掃除した後の“きれいになった”という心地よさも感じながら取り組んでいます。

⑦言語療法

言語療法は、言葉を話したり聞いたりする機能に障害がある人に対して、日常生活を円滑に送る為に行われるリハビリテーションの事です。

リハビリテーションの中では、話す・聞く・書く・読む等の言語力の向上と非言語(ジェスチャー)を使用したコミュニケーションの練習や、口から安全に食べられるように噛む・飲み込むの練習、さらに目には見えにくい集中力・記憶力・思考力について練習等、様々な練習を通して、子どもたちが日常生活を過ごしやすくなるように支援をしています。

※夏休み期間等の長期休みで希望者のみ利用可能。通常の利用時には言語療法の利用は受けられません。

【 具体例 】

〔発音練習〕

・特定の音を正しく発音する為の練習をします。子どもが発音した音に対して、即座にフィードバックを行い、修正を促します。他にも、吹きゴマ等の玩具を用いたり、うがいや口の体操を行う中で、口の周りの筋力強化を行っています。

〔語彙の拡大〕

・新しい単語を学ぶ為、絵カードや図鑑を使用して視覚的にサポートをしていきます。また、本の読み聞かせを行う中で、語彙を豊かにする活動も行っています。

〔会話スキルの育成〕

・実際の会話シチュエーションを想定してロールプレイを行い、会話のスキルを磨きます。他にも質問に答えたり、質問をしたりする練習を通じて、会話の流れを学びます。

〔社会的コミュニケーションの方法〕

・ジェスチャーを使って意味を伝える練習を行います。さらに、表情を使って感情を伝える練習で、他者の表情を読み取るスキルを強化します。

イルカ児童園療育プログラム(放課後等デイサービス)

3. 放課後等デイサービス～1日のスケジュール～

【学校あり 15:00-17:00】

- 15:00 順次登園
準備・余暇活動
- 15:40 お集まり
- 15:50 集団活動
- 16:20 個別課題
- 16:30 余暇活動
順次降園

【学校なし・長期休み】

13:50-17:00

イベント等では 10:00-13:10 の時間で児童発達支援と合同で行う場合もあります。

【イベント】

節分、ひな祭り、七夕、水遊び・夏祭り・ハロウィン・お料理体験(たまごボーロ、オレンジジュースゼリー等)
親子レク・クリスマス会・お誕生日会・卒園式 等

2024年12月1日

2025年2月1日